

ASAIO 参加印象記

国立循環器病研究センター人工臓器部

西中 知博

Tomohiro NISHINAKA

American Society for Artificial Internal Organs (ASAIO) の annual conference (2023 ASAIO) が2023年6月14日～17日の日程で米国カリフォルニア州サンフランシスコの San Francisco Marriott Marquisにて開催された(図1)。ASAIOの annual conferenceは2020年においては、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的パンデミックに伴いオンライン開催(virtual on demand)となっていたが、2021年より現地開催に復帰している。サンフランシスコは米国の太平洋側にあり、港と坂が大変美しく、日本人も仕事や観光で多く訪れる都市である。しかし、COVID-19のパンデミックのためロックダウンとなるなど、日本からの訪問には高いハードルがある時期もあった。2023年6月現在は、2023 ASAIO会場や街中でマスクを着用している人はほとんどいない状況で、市民生活は正常化してきているように見受けられた。

ASAIO参加者はCOVID-19発生以前に比べると減少しており、会場は縮小し、日本からの参加者も少なくなっている印象であった。2023 ASAIOにおける口演発表は138演題、ポスター発表は112演題であった。様々な発表が米国をはじめとした世界各国から行われ、発表に対する質疑では大変活発な討論が行われており、今後の更なる発展が期待される状況であると思われた。

プログラムでは、循環器領域が多数を占めており、腎臓、肺領域などは比較的限定的である印象であった¹⁾。肺領域においては、COVID-19患者における重症呼吸不全へのVV-ECMO(veno-venous extracorporeal membrane oxygenation)の使用などについて発表が行われた。循環器



図1 2023 ASAIO会場の San Francisco Marriott Marquis

領域においては、急性循環不全に対するMCS(mechanical circulatory support)、植込型VAD(ventricular assist device)などについての臨床的研究発表が例年同様に行われた。心臓移植関係では、臓器機械灌流保存法を用いた心臓移植、心停止ドナー(donation after cardiac death, DCD)による心臓移植などについて発表が行われた。全人工心臓関係では、連続流式全人工心臓などについて発表が行われた。VAD関係では、各種新規VAD、全体内植込みを目指した経皮的エネルギー伝送システム(transcutaneous energy transmission system, TETS)などについて発表が行われた。また、僧帽弁位に植え込まれる形式のLAAD(left atrial assist device)

■ 著者連絡先

国立循環器病研究センター人工臓器部
(〒564-8565 大阪府吹田市岸部新町6-1)
Email. nishinaka.tomohiro@ncvc.go.jp

について発表が行われた。小児関係では小児用植込型 VAD, 小児用植込型全人工心臓などについて発表が行われた。また, IFAO (International Federation for Artificial Organs) セッションとして, 「Unmet Needs And Novel Developments In Mechanical Circulatory Support: Worldwide Approaches」と題して, 世界各国の研究開発についての発表が行われた。

全体を通して有意義な発表が数多く行われ, 参加することによって人工臓器の世界最前線を学ぶことができる非常に充実した学術集会であった。

次回の2024 ASAIOは2024年5月29日～6月1日の日程で

米国のメリーランド州ボルチモアのBaltimore Marriott Waterfrontにて開催される予定である。多くの参加者が世界中から集うことによって, COVID-19発生以前のような姿となり, ますます世界の人工臓器の発展に貢献する学術集会となることを期待する。

本稿の著者には規定されたCOIはない。

文 献

- 1) ASAIO journal, Volume 69: Supplement 2, 2023